

第1回 万田小学校学校運営協議会 議事録

令和4年5月16日（月）18:00～19:30

於：万田小学校図書室

1 委嘱状交付

荒尾市教育委員会 浦部教育長から委員一人一人に対して委嘱状が手渡される

2 教育委員会挨拶

予測困難な未来を乗り越えていくため、これまで100年以上続いてきた教育を大きく切り替える施策を取ることにした。

本年度荒尾市は全小中学校を法に基づくCSに指定。CS元年として位置づけ。

委員の皆様は、特別職の非常勤職員となり、学校運営の権限と責任を有する。

子供を中心に据えた、それぞれのお立場で、学校教育目標を実現していただきたい。

3 会長、副会長選任

会長…渡邊義専委員 副会長…田中一大委員、中村光成委員 に決定

4 議事

(1) 本年度学校運営の方向性について

・グランドデザインをもとに教育目標の説明

「子供を育てる」意識から「子供が育つ」学校への意識へ転換

「主体性・協働性・自律性」を身に付けさせたい資質・能力として位置づけ

学力向上・学校力向上・連携力向上の3つの柱で取り組んでいく

・高学年は完全教科担任制を敷き、複数の眼で子供を見守っていく

・学力向上（リーダー：樋口教諭）

全員活躍を目指し、誰一人取り残さない授業改善

能動的に学び続ける家庭学習の進め方（内容面の充実）

→基礎基本の徹底に向けて丸付けボランティアなどを依頼したい

・学校力向上（リーダー：平島教諭）

学級・学校貢献につながる主体的な委員会活動

子供たちによる学級風土づくり

→子供たちの様子を見て、がんばっていることをメッセージに書いてもらいたい

・連携力向上（リーダー：山本教諭）

家庭や地域と連携した、総合的な学習の時間や生活科の実践

（カリキュラム・マネジメントの実践）

家庭と連携した生活習慣（メディア時間）の改善

ひまわりファームとの連携

→自分が好き、万田小が好き、荒尾市が好きと言える子供

(2) 「子供が育つ学校づくり」に関する意見交換

【中村副会長】「のあそびlabo」の説明と紹介。小学生も含めた地域住民の参加

【宇佐教諭】「ひまわりファーム」の販売場所として連携をしたい

【寺田委員】荒尾一小で取り組んだ「音と光の祭典」の紹介。小学生が企画から参加する

参画の取組。持続可能な取組として、小学生が戦力となっている。

【森崎委員】いい取組なので、もっとスタッフの数など増やしていけばいい。

【渡邊会長】万田中央地区協議会の「まん中の会」ではコンテナハウスを使って取組を行っている。「有明高専との連携」「もぐら打ち」「ウォークラリー」「職場体験（舗装道路など）」「子供会議で自己実現の場」など

【田中副会長】職場体験は日頃できないことができるだけでなく、町が活気づく。

【平川委員】登校中に転んだ子供がいた。少年指導員も積極的にかかわっていきたい。

国道沿いの広い歩道を広がって歩いているのは注意していききたい。

【田中副会長】委員会活動は動き出しているのか

【成瀬教諭】5、6年生により編成、活動も始まっている

【北岡校長】次回の学校運営協議会では、児童会リーダーも出席して提案を行う予定

【池田委員】子供の数が減少し、地区公民館も減少しているが、ふれあう場は地域でもあるだろう。ひまわりファームへの協力も交流の場になりそう。海陽中との交流もなくなっているが…。

【谷口委員】中学校も地域の方との活動を2年間していない。職員も生徒も知らないメンバーが増えている。昨年は、サマースクールで各小学校においてボランティアを実施。With コロナで何ができるかを考えていく必要がある。グランドデザインにある「9年間を見据えた通過点」という考えはとてもいい。今いる学年、今いる学校が一番であると生徒には話している。

【岩村委員】この2年間保護者と先生の接点が減少。保護者同士の交流もなくなっている。親同士でつながるような活動が減ってしまった。交流の場や機会を作りたい。

【興田委員】昨年度のクリーン大作戦では多くのゴミ（特にたばこの吸い殻）が多かった。拾ったゴミについて地域に問題提起をしていくのも一つの方法ではないか。

(3) 学校からの依頼

① 運動会駐車場誘導について、昨年度同様の人員協力をお願いしたい。(佐々木教諭)

【平川委員】全部で8名の方に昨年度立ってもらった。1つの場所に4時間は体力的にもかなり厳しい。他の団体と協力して2時間ずつになるとありがたい。

【北岡委員】本校職員や田添委員とも相談しながら人数を減らす方向で調整していく。

② ひまわりファームについて、協力を依頼したい。(宇佐教諭)

・ ひまわりファーム年間計画に沿った説明

・ 地域との連携依頼（畑づくり、栽培、除草、収穫、販売等）

(4) 本校校長から

・ 保護者のつながりは急務。子供同様誰一人取り残さないつながりづくりが必要

・ ひまわりファームに代表されるように、本物の体験が大切

・ できるだけ多くの大人と関わることで、人のシャワーをあびてほしい

・ まずは運動会で子供たちの姿を観ていただきたい

○次回第2回学校運営協議会は7月に児童会リーダーも交えて実施を予定

以上